



図書だより

2024 年 5 月 2 日

高島高校図書館



1学期 読書週間の
感想を一部
紹介します！

初めてこんなに読書がすすめられたと思います。**もっと読みたい、続きが気になる！**となりました。次の読書週間も楽しみです。

2 週間は短いと思いました。そしてこの読書週間で読書にハマりました！**もっとおもしろい本に出会いたい**と思います。

最近読書できていなかったけれど、**この機会に集中して読むことができました**。読んだ本も面白くて、自分にとって有意義な時間になりました。

読書週間があったおかげで本を読むのが好きになりました。毎日読書する時間がほしいくらいです。

授業の前に本を読むことで集中力を出せるので、**1 時間目から勉強を頑張れました**。ずっと朝読書の時間を設けてほしいです。

朝の時間に本を読んでいると続きが気になって、**家に帰ってからでも読むようになりました**。少し時間が空いたら読書していました。

朝ちょっと読むだけで何か変わるのか？と思っていたけれど、10 分だけの読書でもそのあとの集中力はいつもより高くなるし、読書ってすごいなと感じました。読書は苦手だけれど、**自分の好きな分野の本から少しずつ読んでいきたいです**。

短い時間だったけれど楽しめた。父に薦められた本を読んだが、とてもよかった。**自分の知りたいことが書かれている本以外の本も、読んでみると良いものだと思った**。

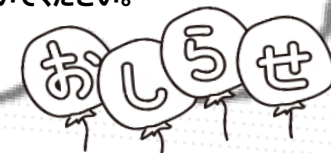
多くの方がこの読書週間をきっかけに本に親しむ時間を過ごしてくれました。2 週間毎日読書をすることで、少しずつ読む体力もついてきたと実感した人も多くいました。今後も様々な本と出会い、興味関心を広げていってほしいと思います。

- ・図書だよりは読み終わったら保護者の方にも見せてください。
- ・5/16 の午後、5/22 終日 図書館休館です。
- ・返却期限の過ぎた図書館の本は返却、もしくは延長手続きにきてください。
- ・6 月には、5 月中に何冊本を読んだかの調査があります。

各自で記録しておいてください。

Pick up!

みんなが
読んだ本



BOOK

- 普通に学校に通い、帰る場所があることの幸せを痛感しました。
- すごく感動しました。映画を見てから原作を読みましたが、とてもよかった。
- 何回読んでも泣ける本当によい小説。

(その他の汐見夏衛さんの作品も人気でした！)

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』

汐見夏衛(スタート出版)

BOOK

顔を見たこともない父親が書いたという原稿『世界でいちばん透きとおった物語』を探す物語。最後に「」の意味がわかった時、すごいと思った。

**本屋大賞
受賞！**

『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光(新潮社)

BOOK

- 奇想天外な主人公の成瀬あかりが面白かった。
- おもしろかったです！自分が思ったことを全部やったり、やろうとしていてすごいなと思いました。

(滋賀県が舞台となった、さわやかな青春小説！本屋大賞を受賞されて、県内だけでなく全国で話題になりました。1 年生のみなさんには図書館オリエンテーションでご紹介しましたが、高島高校生みなさんにおすすめしたい作品です。)

『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈 (新潮社)

Pick up!
みんなが
読んだ本

読書は“本を選ぶ”ことからじまります。“おもしろい！”と思える本に出会えることがとても大切。その出会いの一つとして、友だちや先生が読んで面白かった本を参考に選んでみるのもおすすめです。表面に引き続き読書週間でみなさんが読んだ本と、書いてくれた本の感想を一部紹介しますので、気になった本があればぜひこの機会に手に取ってみてくださいね。

『2.43 清陰高校男子バレー部』

壁井ユカコ

ハイキューみたいで面白かった。弱小チームが強くなっていくところが面白かった。

『生命式』 村田沙耶香

話がぶっ飛んでいたが、ラストはうまくまとめてあって、作家はすごいと思った。

『ひまわりは恋の形』 宇山佳佑

感動するし切なすぎました。最後はまさかの展開で、めっちゃめっちゃ愛感じます。

『選ばれる女におなりなさい』

ラトナ・サリ・デヴィ・スカルノ

恋愛について書かれている本で、考え方に共感できたり参考になったりしました。

『カケラ』 湊かなえ

□ 対話形式で進んでいくので読みやすかった。

□ 面白い！はやく読み終わりたい！

『吾輩は猫である』 夏目漱石

猫の視点から描かれる人間の生活が新鮮で、面白かった。

『「空気」を読んでも従わない』

鴻上尚史

日々感じる生きづらさの原因、解決策が書かれていた。高校生活で悩んでいる人がいればぜひ読んでみてほしいと思う。学んでおいて損はないことがたくさん書かれている。

『赤ずきん、ピノキオ拾って』

死体と出会う 青柳碧人

新たな仲間が加わって旅が続くのがアツい。そのキャラも推理に加わるところが良かった。前作のキャラの名前が出てきて口角が上がった。

『変な家』 雨穴

読書が苦手な自分でもこの本は内容がわかりやすかったし、読書の面白さが分かった。

『早朝始発の殺風景』 青崎有吾

読んでいて夢中になりました。読書がおもしろいと初めて感じた一冊。

『天久鷹央の推理カルテ』 知念実希人

ミステリー好きにおすすめ。作者が医者でもあるので病気についてわかりやすく書かれている。

登場人物も個性的で面白い。

『羅針盤の殺意』 知念実希人

このシリーズは伏線が多く、最後の方で驚くことが多いのですが、今回は「あ！」となった後に、それ以上に「あ！！」となったのでとてもおもしろかったです。

『冷たい校舎の時は止まる』 辻村深月

登場人物一人一人の生活の様子や性格が細かく描かれていて、全部が伏線のように、早く次のページが読みたくなるような本でした。

『誰の味方でもありません』 古市憲寿

「観光名所は写真に勝てない」という部分を読んで、普段は実際に見る方が良いと思っていたので意外で面白かったです。

『日本のコミュニケーションを診る』

パントー・フランチェスコ

日本人のコミュニケーションは海外の人と比べると全く違うものだを知れて勉強になりました。

『タスキメシ』 額賀澤

自分も陸上競技をやっているので共感できたし面白かった。



『覘き小平次』 京極夏彦

江戸の人々を中心とした、人の思惑や感情が大きく変化していく物語でした。薄気味悪いのに読後感爽快感のある一冊でした。

